



DAIDO CAMPUS

No.85 2015.7



写真提供：アルバム委員会



大同大学
DAIDO UNIVERSITY



第50回大学祭(宴祭) 『Re Birth』

5月23日(土)、24日(日)の2日間、大学祭実行委員会主催、大学祭が開催されました。今年
は『Re Birth』がテーマ。

様々な大学からのブースの協力、BIGMAMAによるプロコンサート、そして大学祭実行委員会による企画の数々。節目となる第50回目の開催ということもあり、例年以上の盛り上がりをみせていました。きっと皆さんの大切な思い出の一ページになったと思います。

後夜祭のダンスステージでは、全体で掛け声を出すことで会場が一つになっていて、それぞれの笑顔がまぶしいくらいに輝いていました。

また、大学祭の期間中には、同窓会総会・懇親会も開催されました。卒業生の方々だけではなく、吹奏楽団やかおりデザイン専攻の在学生らも参加し、卒業生と在学生の良い交流の場となりました。

(写真・文章提供：アルバム委員会)





同窓会総会・懇親会も開催されました!





東海学生ハンドボール春季リーグ戦 女子が初優勝!男子も西日本インカレ出場決定!



女子ハンドボール部が、東海学生ハンドボール春季リーグ戦で優勝を果たしました!最終戦は、ここまで全勝同士の対決に。相手の中京大学は8期連続優勝を誇る強豪チームで、本

学もこれまでに悔しい思いをしてきました。結果は、29対16と相手を大きく突き放し、本学女子ハンドボール部創部以来の初優勝を成し遂げました!

4年生の木村美月さんが最優秀選手に、4年生の肥田野雅実さん、2年生の福地成以良さん、鈴木真由さんが優秀選手に選ばれました。

また、男子ハンドボール部は、優勝した中部大学を相手に1点差で惜敗するも4位に入賞!男女ともに8月に行われる西日本インカレの出場権を獲得しました!今後の活躍も楽しみです!



榊原伸男さん・大島健正さん(工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻4年)

「第4回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞」で佳作・入賞しました!

「第4回 E&G (エクステリア&ガーデン) DESIGN 学生デザイン大賞」は、5月9日(土)、10日(日)にポートメッセなごやで開催された「第6回エクステリア&ガーデンフェア名古屋2015」において、学生を対象として企画されたもの。

『住空間のエクステリア』、『商業空間のエクステリア』、『公共・都市空間のエクステリア』の3部

門でそれぞれ最優秀賞、優秀賞が選ばれ、工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻4年の榊原伸男さん(加藤和雄研究室)・大島健正さん(中島貴光研究室)の「海と出会うレストラン-海と人工水面の一体化/水面の反射光によるウツロイの創出-」が商業空間のエクステリア部門で佳作・入賞となりました。

5月9日(土)にはポートメッセなごやにて授

賞式が行われ、「第6回エクステリア&ガーデンフェア名古屋2015」会場内には応募された全作品が展示されました。



▲入賞した榊原さん

小林士剛さん(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻4年)

第16回空気調和・衛生工学会中部支部学術研究発表会で 優秀ポスター賞を受賞!

3月9日(月)、名古屋大学環境総合館レクチャーホールにて、第16回空気調和・衛生工学会中部支部学術研究発表会が開催され、本学の小林士剛さん(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻4年)が優秀ポスター賞を受賞しました。

研究発表は、口頭発表とポスターセッションがあり、口頭発表は、10~15分程度でパワーポイントを用いて行うかたちで、本学からは、磯崎文音さん(大学院情報学研究科 修士課程 情報学専攻 かおりデザインコース2年)が「におい物質濃度が臭気質に及ぼす影響に関する検討」を発表しました。

ポスターセッションは、前半の個別発表と後半の自由討論に区分されており、前後半合わせて4分間の発表。参加者はポスターを自由に見てまわり、発表者はポスター前に常駐し、参加者への説明や質疑応答、討論を行うというかたちのものでした。本学からは、小林士剛さんが「自動車内装材のたばこ付着臭に関する研究」、加藤雄大さん(大学院情報学研究科 修士課程 情報学専攻 かおりデザインコース2年)が「レモンの香気成分の嗅覚閾値と臭質に関する検討」を発表しました。

さまざまな大学や企業から、口頭発表16組、ポスターセッション20組が集まり、互いの研究について発表し合いました。



▲優秀ポスター賞を受賞した小林さん

杉山慎治さん(大学院工学研究科 修士課程 建築学専攻1年)

JIA 東海学生卒業設計コンクール 2015 で入賞!

第 22 回 JIA 東海学生卒業設計コンクール 2015 で杉山慎治さん(大学院工学研究科 修士課程 建築学専攻1年/宇野享研究室)の作品「ガソリンスタンド 2.0」が入賞しました。

「ガソリンスタンド 2.0」は、ガソリンスタンドが日々減り続ける中、使われなくなった閉鎖スタンドをコンバージョン(用途変更)することで、都市や地方に新たなエネルギーを供給するという提案です。

5月30日(土)には公開最終審査・表彰式・講評会が行われました。また、2015年5月下旬から6月上旬には応募作品及び入選作品の展示会が名古屋都市センター「まちづくり広

場」金山南ビル 11F(名古屋市中区金山)で行われました。



▲杉山さんの作品

詳細はこちらから: <http://www.tokaisotukon.org/> (JIA 東海学生卒業設計コンクール HP)

クラブ委員会主催

クラブ対抗ボウリング大会

6月6日(土)、クラブ委員会主催、クラブ対抗ボウリング大会が行われました。投球練習時から、ボールが投げられるごとに歓声があがり、大会中は熱気で満ち溢れました。またどこか和気藹々とした雰囲気もあり、各クラブが絆を深めることが出来たのではないかと思います。

表彰式では、団体・個人別で上位とランダムな順位に景品が用意されており、ハイスコアを取れなかった人も最後まで楽しんでいました。

●団体の部

順位	団体	チーム名
1	会計監査委員会	みっくん大好き芸人
2	ストリートダンス同好会	ストダン
3	FCR 同好会	FCR1

●個人の部

順位	団体	チーム名
1	卓球部	江尻健悟さん
2	会計監査委員会	山田さん
3	ストリートダンス同好会	桑原大輝さん

(写真・文章提供: アルバム委員会)



前田安郭教授(工学部 機械工学科)

日本鋳造工学会で優秀論文賞を受賞！

公益社団法人 日本鋳造工学会の優秀論文賞を前田安郭教授が受賞しました。
「鋳造工学」第 86 巻第 1 号に掲載された

前田教授の論文、「注湯と搬送を並行する傾動式自動注湯機における液面振動固有周波数の推定と振動抑制」が優秀と認められ、今

回の受賞にいたりました。

橋口宏衛講師(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

中京テレビ『キャッチ!』に出演し、 ドローンについてコメントしました



4月24日(金)、中京テレビ『キャッチ!』(毎週月～金、15:50～放送)で、小型無人機・ドローンに関する特集が放送され、橋口宏衛講師が出演しました。

取材を受けた橋口講師はそもそもドローンとはどういったものなのか、どのような可能性があるのかについて解説しました。

番組ではドローンが愛知の新産業として期待されている一方で、ドローンによる事故も注目を集めていることに触れ、橋口講師が指摘したドローンの課題として機械自体の性能の向上と利用する人の問題があることを紹介しました。

また本学のグラウンドで実際にドローンの飛行実験を行っている場面も放送されました。



第1回 無人飛行ロボット活用ワーキンググループで講演を行いました

4月24日(金)、愛知ロボット産業クラスター推進協議会の「第1回 無人飛行ロボット活用ワーキンググループ」で橋口宏衛講師が講演を行いました。

愛知ロボット産業クラスター推進協議会は、愛知県で産学行政が連携しロボットの新技术・新製品を創出し続け、この地域を世界に誇るロボット産業拠点として発展させることを目指し、昨年11月に設立されたものです。その中で、無人飛行ロボットの開発・実証実験の実施及び新たなビジネスモデルの可能性を検討することを目的とし「無人飛行ロボット活用ワーキンググループ」を立ち上げ、第1回がこの度開催されました。

当日は、愛・地球博記念公園内で、橋口宏衛講師の講演の他、無人飛行機のデモンストレー

ションなどが行われました。講演では、「無人飛行ロボットの高性能化および活用拡大の可能性」と題して、ドローンによる事件で過度な規制が懸念される中、すでに実用化された事例を含めて活用策を紹介し、「ドローンの普及に法整備やルール作りが追いついていない」、「事件を契機に規制

強化が進むかもしれないがこの会でもなにができるのかを考えたい」との話がなされました。

なお、今回のワーキンググループと橋口講師の講演内容は4月25日(土)の中日新聞でも紹介されました。



加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

MESH環境デザインセミナーにコメンテーターとして参加しました

第92回MESH環境デザインセミナーに、加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)がコメンテーターとして参加しました。

MESH環境デザインセミナーは、インテリア

ア・建築・環境・プロダクトなどを学ぶ空間デザイン系の学生と若いデザイナーを対象として、年に数回開催。毎回日本を代表する空間デザイナーにご講演いただいています。

今回は、5月13日(水)に名古屋工業大学で建

築家 長谷川豪氏をお招きして、「Local-Locus」と題して講演いただいたほか、加藤教授との対談、学生プレゼンテーションなどが行われました。

加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻) 第4回E&G(エクステリア&ガーデン)DESIGN 学生デザイン大賞に審査員として参加しました

「第4回 E&G (エクステリア & ガーデン) DESIGN 学生デザイン大賞」に、審査員として本学の加藤和雄教授が参加しました。

「第4回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞」は、5月9日(土)、10日(日)にポートメッセなごや3号館で開催された「第6回エクステリア&ガーデンフェア名古屋 2015」において、学生を対象として企画されました。

「花と緑のある暮らし方～幸せ感あるエクステリア～」をテーマに、住空間、商業空間、公共・都市空間のエクステリアの分野で、住まい方や利用の仕方、身体面・心理面、省エネ・環境性等の要素と空間の関わり方を考えた

空間デザインについて、学生の新鮮で独創的かつリアリティある提案から、幸せ感のある生活、環境、空間創造の向上を目的としたものです。

4月4日(土)に加藤和雄教授らによる審査が行われ、『住空間のエクステリア』、『商業空間のエクステリア』、『公共・都市空間のエクステリア』の3部門でそれぞれ最優秀賞、優秀賞が選ばれました。5月9日(土)午後にはポートメッセなごやにて、授賞式と最優秀賞・優秀賞受賞者による10分程度の作品のプレゼンテーションが行われました。また、「第6回 エクステリア&ガーデンフェア名古屋

2015」会場内には応募された全作品が展示されました。



中島貴光准教授(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻) 「あらかわ創造舞台芸術祭2015」で舞台美術を担当しました



あらかわ舞台芸術創造プロジェクト「あらかわ創造舞台芸術祭 2015」で中島貴光准教授が舞台美術を担当しました。

このプロジェクトは、「能楽とオペラ」のコラ



ボレーションを元に「日本人の美意識に基づく、新たな舞台芸術を作り上げていこう」というもの。演目にはオペラ、能、能オペラが組み込まれ、日本の伝統文化である「能」と西洋の

文化である「オペラ」が融合したものとなりました。

通常、能舞台の中心である本舞台は三間四方(約5.4m×5.4mの正方形)であるものを、本公演では同程度の円形の砂場を中央に設けて本舞台とし、ギリシャ悲劇が繰り広げられるエーゲ海の情景を、能舞台の白州や枯山水の庭園で用いられる見立ての手法に倣い、隠喩として白砂を用いることで再現しました。

また、流れ落ちる砂は、現れては消えるはかない空間で、西洋の古典文学と日本の伝統的様式美が結ばれることを期待しています。

藤森繁講師(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻)を含むグループ 「国際トラスコンテストの会」が日本建築学会・教育賞を受賞

藤森繁講師がメンバーとして参加した「国際トラスコンテストの会」が日本建築学会・教育賞を受賞しました。

国際トラスコンテストの会では、10年以上にわたって、構造技術者を志す学生向けの国

際トラスコンテストを通じた継続的教育活動を行っており、構造技術者としての基礎力の強化、柔軟な発想の強化、国際的な視野の強化など、多くの教育効果が得られています。

10数年にわたりさまざまな創意工夫をこら

しながら、多数の大学が参加する国際トラスコンテストを継続して実施していることや、多角的視野を持つ構造技術者の育成に向けた教育上の貢献が極めて高いことが評価され今回の受賞に至りました。

各賞の詳細はこちら：<http://www.aij.or.jp/2015/2015prize.html>(日本建築学会 HP)

渡部裕子准教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

南オーストラリア州立美術館に作品11点が永久収蔵されました

オーストラリアのアデレードにある南オーストラリア州立美術館に、渡部准教授の立体書作品が11点、パーマネント(永久)作品として収蔵されました。

11点の全体テーマは「風 不可視」。すべて同じ漢字で構成し立体ならではの光と影の演出を取り入れた作品です。書道芸術としてのだけの存在にあきたらず、置かれた空間との関係性までも作品におとしこんだといわれた立体書は、現代の屏風であるとも評価されました(美術館ディレクター Rasty Kerty 談)。

渡部准教授の来豪時には、高校生へのワー

クショップや講義、また OZASIA FESTIVAL というアデレード最大級のアートイベントでの

単独公演も行われ、700名のスタンディングオベーションとともに成功しました。



横山弥生教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

マンハッタンで個展「EVERLASTING」を開催しました

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 横山弥生教授が、5月6日(水)～5月30日(土)の間、長年続けているデジタル制作による作品の個展「EVERLASTING」を開催しました。

個展は NY マンハッタンの中タウンに位置する伝統ある「Medialia ... Rack and Hamper Gallery」で行われました。

平面作品23点、立体作品5点がギャラリーを埋め尽くし、9日(土)に行われたレセプション

には国内外から多くの人が足を運びました。

また、この個展の様子は日経新聞や NY の

ギャラリーガイドにも掲載されました。



横井健二教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

常滑高校・南陽高校で出前授業を行いました

横井健二教授が、愛知県立常滑高等学校と、愛知県立南陽高等学校の生徒を対象に、出前授業を行いました。

常滑高等学校へは、3月16日(月)に訪問。クリエイティブデザイン科の2年生を対象に、プロダクトデザインの概要を説明し、生徒たちにグループ単位でマグカップ、あるいは携帯電話のデザインをしてもらい、発表してもらいました。

4月30日(木)には南陽高等学校を訪問。2年生全員を対象に「意匠権」についての授業を行いました。この授業の目的は半年間を掛けて6人1グループでデザインの提案をまとめていくもので、デザインの創作の仕方や手順といったものの学びと、最終的なデザイン案は意匠権として認められる権利であるという社会的

な仕組みを学ぶこと。今回は、その第1回目の授業として、まず製品デザインとはどのような仕事か、どのような製品に携わっているのか、その手順はどのようにするのか、発想のコツはどのようなものか、そして最後に意匠権の仕組

みについてなど、中身の濃い内容が話されました。

今後は生徒がグループとなって創作活動を進めていくこととなりますが、また横井教授が高校へ訪問することも予定されています。



▲常滑高等学校



▲南陽高等学校

岡田心准教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) デザインした照明器具が 中日新聞で紹介されました

5月14日(木)中日新聞夕刊で、岡田心准教授がデザインした照明器具が紹介されました。

記事では、岐阜提灯の需要が減少する中、「現代の暮らしに合った商品開発を」と岡田准教授に依頼があり、「和室以外にも似合う行

灯」として、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に登録された本美濃紙と美濃焼を融合させた照明器具をデザインしたことなどが、照明器具の写真とともに紹介されました。



▲中日新聞 (5月14日)



海外研修報告

井藤隆志教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) ミラノ工科大学での海外研修報告

2015年3月、井藤隆志教授がイタリア・ミラノ工科大学での1年間の海外研修を終え、帰ってきました。1年間の報告を井藤教授に書いていただきましたので、紹介します。



2014年4月より、イタリアのミラノ工科大学デザイン学部での1年間の海外研修を終え、帰ってまいりました。

本校は2007年より、ミラノ工科大学と学術交流協定を結んでおり、既に建築学科では連携授業を実施しています。ミラノ工科大学は、創立1863年、学生数4万人のイタリア最大の国立工科大学であり、多くの著名な建築家、デザイナーを輩出する名門校となっています。

今回は私の研究テーマ以外に、デザイン学部と、本校の情報デザイン学科との間で学際交流を深めたいという目的もありました。イタリアと私の関係は1999年まで遡ります。中小零細企業が世界を舞台に魅力的なデザインの日用品を開発し、製造し、販売していくイタリアに魅了さ

れ、当時勤めていた通信機器メーカーのデザイン研究所を退社し、単身でイタリアに渡りました。約3年の間ミラノに滞在し、イタリア流のデザイン業、製造業の仕組みを学びました。その後、日本でフリーランスのプロダクトデザイナーとして岐阜県を中心とした中小企業との間で、地場産業とデザインというテーマで活動できたのも、

このイタリア時代で学んだことが大きく活かされていました。帰国後12年間経過し、製造業におけるデジタルツールの活用が進んだ中、イタリアのクリエイティブ産業や製造業がどのように変化し、日本の産業にどう活かせるヒントが得られるかが今回の研究の目的でした。

今回の調査で印象的だったことは、イタリアの職人の手作業と3Dテクノロジーを中心としたデジタルツールとの融合でした。眼鏡のフレーム作り職人、ジュエリー職人、テラー、パティシエなどが3Dプリンターや3D切削機、3Dスキャナーなどを自在に使用し、革新を起こしていることが興味深いものでした。小規模の零細企業ではあるものの従来のハンドメイドの利点である小ロットの独自性のある商品展開との相性

も良く、手工業にデジタルツールを取り入れることにより、職人のものづくりを残そうとしているところが印象的でした。

幸運にも、もう一つの目的であるミラノ工科大学との連携授業もうまく実施することができました。イタリアと日本の学生がこれからのデザインについて深く考え、お互い刺激を与えられる交流にしたいということで、今回は日本の「俳句」をテーマに、そこから感じられるインスピレーションからの食の空間をイタリアの学生が展開し、その後、日本の学生がその空間で使用されるプロダクトをデザインするというリレー方式の授業で実践しました。イタリア人の文化レベルを考察するアプローチは日本の学生にも大きな刺激を与え、お互いに顔を合わせることはできなかったものの Skype を使い、学生同士が英語を用いてプレゼンテーションを行うとともに、3Dデータの交換により、お互いの学生が深く理解でき、質の高い提案を作り上げることができました。その成果はミラノ工科大学内でも評価され、4月に開催されたミラノ・サローネと呼ばれるミラノで開催される世界最大規模のデザインの祭典の期間に、大学の大きな目玉の成果としてミラノ工科大学内で展示されました。

この一年間で得て来た貴重な経験を活かして、今後も研究、教育に専念していきたいと思っています。



情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

国際連携ワークショップで制作した立体模型が ミラノ工科大学内の学内展示で展示されました



4月9日(木)～20日(月)、ミラノ工科大学内の学内展示に、ミラノ工科大学デザイン学科と本学情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻の国際連携ワークショップで制作した立体模型が展示されました。

この学内展示は、4月にミラノで開催されたミラノ国際家具ショーと5月にミラノで開催された展示のオフィシャルサイトはこちら:<http://www.polidesign.net/en/designXdesigners2015>

れた EXPO 2015 に向けたもの。

国際連携ワークショップでは、はじめにミラノ工科大学で、感性的なインスピレーションから発想する試みとして日本の「俳句(HAIKU)」を題材に、食のための空間「フードスペース」のデザイン提案を実施。15 グループの提案のうち、4つの優秀作品が選ばれま

した。その4提案に対して、本学の学生がそのインテリア環境で使用するプロダクトのデザイン提案を行いました。5日間の短期集中プログラムでテーマの理解、コンセプト立案、デザイン発想、詳細デザインを行い、最終日にはプレゼンテーションを実施。毎日夕刻にはミラノ工科大学で活動していた井藤隆志教授(プロダクトデザイン専攻)とスカイプでやりとりしながら報告会・ディスカッションを行い、デザイン提案を磨いていきました。学生たちは、ミラノの学生たちが提案したレストランに設置するテーブルや食器を、これまでになかった視点から発想・具現化し、自分たちの作品をアピールしました。

左官職人の松本憲司さんとの連携プロジェクト「Xラーニング」 最終プレゼンテーションを実施しました

産学×学科×専攻×学年が連携して画期的な商品の開発に取り組む活動「X(クロス)ラーニング」。

Xラーニング第2章として2014年8月より、「現代の名工」に選出された「蒼築舎(三重県四日市市)」を営む左官職人の松本憲司さんと4つの学科・専攻(工学部建築学科建築専攻/工学部建築学科インテリアデザイン専攻/情報学部情報デザイン学科メディアデザイン専攻/情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻)がクロス。「かまど」を、火に親しみながら火の文化、食・住の文化を感じ、癒しとくつろぎを演出するツールとして提案するため、「かまど」のある生活の空間づくりからデザインし、その空間にあって、斬新かつ魅力的なかまどを研究してきました。

3グループが集い、8月からアイデア出しやブレゼン、ブラッシュアップを行う中で、地方公共団

体「三重県産業支援センター」ともクロスすることにより、鳥羽港の北東約2.5kmに位置する鳥羽市最大の島「答志島」で「かまど」を活用した地域ビジネスの提案に展開していきました。2月末には答志島に出向き現地を体感、さらなる研究に励み、4月24日(金)本学にて最終プレゼンテーションが行われました。

松本さんの「どんな成果が聞けるかわくわくしている。すごく楽しみです。」との期待に、学生らは、答志島よりあらかじめ指定されていた空間のデザインの提案を、スライドや模型を用いながら行いました。

答志島の魅力を伝えるために、答志島特有のものをピックアップし4つのキーワードから空間

をデザイン、ブラッシュアップ。家族連れをターゲットに絞り、「冬の答志島に人を呼ぶこと」を目的に、それぞれの空間で、観光客がどのように楽しむことができるかも合わせて発表されました。さらに、その空間に観光客を呼び込むためのツアーの提案もなされました。空間のデザインの中には、3種の使い方ができるかまどや燗製器の提案もあり、答志島×左官が組みこまれたものでした。

プレゼン後、松本さんから「できるなと自信をもちました。これからまた一緒に練っていきましょう。」と講評をいただきました。今後さらにアイデアを練っていき、将来は「蒼築舎かまどショールーム」、さらには答志島にて空間、かまど共に実物制作されます。



左官職人の松木憲司さん×岡田心准教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

「Table of Dreams 夢の食卓」に出演しました



4月25日(土)BSフジ「Table of Dreams 夢の食卓」に、本学と連携してクロスラーニン



グを行っている、左官職人の松木憲司さんと岡田心准教授(情報学部 情報デザイン学科

プロダクトデザイン専攻)が出演しました。

「Table of Dreams 夢の食卓」では、日本各地の“食卓”にまつわる様々なエピソードを取材。そこにある“人と人との絆”が描かれています。4月5日(日)には本学内で撮影が行われ、番組内では、松木憲司さんと岡田准教授らが共同で製作した「コヘツツイ三」の紹介を中心に、左官や、「かまど」の文化を伝えていく、松木さんの思いが語られました。

新入生オリエンテーション合宿を行いました



4月3日(金)～4日(土)、静岡県浜松市で工学部 機械工学科、情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻、プロダクトデザイン専攻に入学した学生を対象に新入生オリエン

テーション合宿を開催しました。

このオリエンテーション合宿は、1泊2日の共同生活を通して、学生同士のコミュニケーションの向上や、今後の大学生活をより充実したものにするを目的として行われています。他已紹介ゲームや紙飛行機大会などを通して、初めは緊張していた学生たちも徐々にお互い打ち解けてい

き、楽しんでいる様子が見られました。

これから4年間多くの人たちと交流し、大学生活をより充実したものにしていきましょう。





第3回異分野交流会を開催しました

4月29日(水)、本学A棟1階学生ホールで第3回異分野交流会が開催されました。

この交流会は、教員がそれぞれの専門分野と自身の研究・創作活動について、異なる分野の人たちと相互に解説・発表し合うことで、学科や分野を超えたつながりを作ることを目的として開催されています。

3回目となる今回は小澤茂樹准教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)と鷲見哲也准教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻)による講演が行われました。

小澤准教授は、『「駕籠かき雲助」を知っていますか?』と題して、商業教育の歴史的背景を交えながら、交通の問題と経済学という一見つながりのなさそうな分野について、関連付けながら分かりやすく解説がなされました。

また、鷲見准教授の講演では、初めにフィールドワークが大好き!と自己紹介をされたところ、全国各地に実際に調査に出向いた川について、構造や生態などを織り交ぜながら紹介し、最後に『川って自然?人工?』というテーマについて答えはないと話しました。

今回も教員だけではなく、学生や事務職員



も参加し興味深く講演に耳を傾けていました。この交流会では授業とは違って誰にでも分かりやすく、難しい専門用語はあまり使わないように心がけながら講演していただけるため、退屈することなく時間が経つのを早く感じます。次回もお楽しみに。皆様の参加をお待ちしています!



アドビシステムズ株式会社のELTA導入事例として本学がwebやチラシで紹介されています

アドビシステムズ株式会社のELTA導入事例として、本学がwebやチラシで紹介されています。

ELTAとは、教育機関でのAdobe Creative Cloudの全体導入に最適な、期間契約(サブスクリプション)のボリュームライセンスプログラム。Adobe Photoshop や Adobe Acrobat をは

Adobe 事例紹介サイト: <http://www.adobe-education.com/jp/ace/>

じめとする最新の Creative Cloud アプリケーションを大学・専門学校が占有しているすべてのPCにインストールして利用できるほか、購入と展開の管理を無駄なく効率的に行うことが可能で、全学で利用しています。

横井健二教授(情報学部 情報デザイン学

科 プロダクトデザイン専攻)、横山弥生教授(同専攻)、杉本幸雄教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)、企画調整部 情報室職員らが取材を受け、本学ではCreative Cloud アプリケーションをどのように活用しているかについて話しました。

韓山師範学院短期留学報告会を開催しました

4月29日(水)、本学A棟14階交流室で3月に中国・韓山師範学院に短期留学した学生8人による留学報告会が開催されました。

学生たちは、3月6日(金)~3月19日(木)の2週間、中国広東省・潮州市にある韓山師範学院へ短期留学し、中国文化などに関する講義や実技を受けたり、市内や工場見学を行い、中国を肌で感じてきました。韓山師範学院とは、2012年4月に学術交流協定を結んで以降、毎年双方の学生が行き来し、友好的で活発な交流を続けており、今回の学生たちは韓山師範学院への第2期短期留学生となりました。

報告会では、初めに今回の短期留学に引率した石田敏彦准教授(工学部 総合機械工学科

機械システム専攻)から短期留学のプログラム内容について、紹介がありました。

その後、参加学生がそれぞれパワーポイントを使って「印象に残ったことベスト3」、「文化や習慣の違いについて考えたこと」、「留学で学んだことと今後への活用」、「今後の参加学生へのメッセージ」の4点をベースに発表しました。現地で撮影した写真を使いながら韓山師範学院のある潮州市の交通事情、料理、産業、韓山師範学院の学生達の授業を受ける姿などを具体的なエピソードとともに発表し、リアリティのある話に報告会に参加した方々も熱心に耳を傾けていました。

留学期間中には、留学中の様子や感想を学生

たちに毎日担当を決めて日誌につけてもらい、それを大学ホームページに掲載していました。

留学ブログはこちらからご覧いただけます。

短期留学ブログ:
<http://www.daido-news.jp/blog/>



人 事

●異動【高校】(H27.6.1)<事務職員> 伊藤 彰憲 総務部 高校事務室 主任部員